みんなで

　　新・のりこえよう通信

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長室から

令和　3　年　6月　18日　　NO.3

ざんねんないきもの

　何気なく新聞を読んでいますと『ざんねんないきもの辞典』というタイトルのシリ－ズ本が小学生の間で人気だとありました。長い間、小学校に勤めながら知りませんでした。そのシリーズの監修者である今泉忠明さんが書かれた『気がつけば動物学者三代』という書物があるとか。

便利な時代になったもので、あるアプリで検索をかけて注文ボタンを押すと、数日後に、「本屋に届いているので取りに来てください」とメ－ルが。

日頃読まない分野の本だったのでイッキに読みました。

ネズミの標本の作り方にゾッとしたり、標本を完成させるのに頭蓋骨部分の処理が難しく、今では「カツオブシムシ」という虫を活用していることやオランウ－タンの保護施設の苦労など。「『動物がかわいい』」から研究を続けているのではなく、『動物のことを調べるのが好きだから』この仕事を続けている」の一行に思わず立ち止まってしまいました。

　世間では就職活動や公務員試験、学校の先生を目指すのであれば、教員採用試験など、職業に就くための様々な試験が始まっています。

　よく先生を目指す若い学生が「子どもが好きだから先生を目指しています」と言ったりします。かつての私もそうだったように思います。

　自分でも言いながら「好きだから」という文言にいつも違和感を感じていました。

「動物のことを調べるのが好きだからこの仕事を続けている」の一行は、これまでの違和感を氷解させてくれました。

　「子どもが好き」だけでは不十分で「子どもとの関係作りが好き」でないと

教育はできないと、これまでのいろんな思い出を振り返りながら思うのでした。